

安足地域水稲技術情報 No. 4

令和 5 (2023) 年 9 月 5 日
安足農業振興事務所

高温が続いており、白未熟粒や胴割米発生による米の品質低下が懸念されます。

- 間断かん水を継続しましょう！
- 落水は出穂後 30 日以降としましょう！

1 今後の気象と注意点

気象庁の 1 か月予報（8 月 31 日発表）によると、向こう 1 か月の平均気温は高い確率 80%、降水量は多い確率 40%、日照時間は少ない確率 40%という予報が出されています。

6 月中旬移植の「とちぎの星」の出穂期は、前年と比べて 2 日早まりました。出穂期以降も高温が続いており、白未熟粒や胴割米の発生が増加しやすい状況です。米の品質低下を防ぐため、適切な水管理を行きましょう。

表 1 関東甲信地方の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（8 月 31 日気象庁発表）

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	関東甲信地方	向こう 1 か月 09/02~10/01	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		1 週目 09/02~09/08	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		2 週目 09/09~09/15	10 (低い) 10 (平年並) 80 (高い)
		3~4 週目 09/16~09/29	10 (低い) 30 (平年並) 60 (高い)
降水量	関東甲信地方	向こう 1 か月 09/02~10/01	30 (低い) 30 (平年並) 40 (高い)
日照時間	関東甲信地方	向こう 1 か月 09/02~10/01	40 (低い) 30 (平年並) 30 (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

写真 1 玄米のタイプ

整粒	白未熟粒				
	乳白粒	心白粒	腹白粒	背白粒	基部未熟粒
					
白色不透明部分の大きさが一定以上のものが白未熟粒とされます					

胴割米



表2 水稻生育診断ほの調査結果

品種：とちぎの星 移植日：6月16日	本年	前年
出穂期	8月17日	8月19日
葉色(葉色板)	4.0	3.9

2 これからの作業のポイント

(1) 間断かん水を継続しましょう。

今年は気温が高い状況が続いており、白未熟粒や胴割米が発生しやすい状況となっています(表3)。白未熟粒や胴割米の発生を少なくするため、足跡に水がたまっている程度まで自然落水し、気温が下がる夕方以降に入水する「間断かん水」を繰り返しましょう。可能であれば掛け流しかん水も有効です(水利条件に応じて実施してください)。



図1 間断かん水のイメージ

【白未熟粒、胴割米の発生が増加しやすい基準温度】

白未熟粒・・・出穂後20日間の平均気温が28℃以上

胴割米・・・出穂後10日間の最高気温の平均が30℃以上、
最低気温が25℃以上

表3 出穂日ごとの白未熟粒、胴割米判定
8月

		月	火	水	木	金	土	日
出穂期				1	2	3	4	5
白未熟粒判定	出穂後20日間の平均気温			29.5	29.6	29.7	29.6	29.5
胴割米判定	出穂後10日間の最高気温			35.8	36.1	36.1	35.8	35.4
	出穂後10日間の最低気温			26.8	26.9	27.1	27.1	27.1
出穂期		6	7	8	9	10	11	12
白未熟粒判定	出穂後20日間の平均気温	29.5	29.5	29.4	29.4	29.5	29.5	29.6
胴割米判定	出穂後10日間の最高気温	35.1	34.8	34.8	35.1	35.4	35.6	35.7
	出穂後10日間の最低気温	27.0	26.9	26.9	27.0	27.0	27.0	27.0
出穂期		13	14	15	16	17	18	19
白未熟粒判定	出穂後20日間の平均気温	29.5	29.3	29.2	29.1	29.0	28.8	28.6
胴割米判定	出穂後10日間の最高気温	35.5	35.3	35.5	35.7	36.0	35.8	35.9
	出穂後10日間の最低気温	27.1	27.2	27.2	27.2	27.2	27.0	26.9
出穂期		20	21	22	23	24	25	26
白未熟粒判定	出穂後20日間の平均気温	28.4	28.3	28.0	27.8	27.7	27.5	27.2
胴割米判定	出穂後10日間の最高気温	35.9	35.8	35.9	35.7	35.5	35.1	34.5
	出穂後10日間の最低気温	26.9	26.9	27.0	26.7	26.4	26.1	25.7
出穂期		27	28	29	30	31		
白未熟粒判定	出穂後20日間の平均気温	26.9	26.8	26.5	26.2	25.9		
胴割米判定	出穂後10日間の最高気温	34.1	33.8	33.2	32.6	32.1		
	出穂後10日間の最低気温	25.5	25.3	25.0	24.7	24.4		

注) 白未熟判定: 出穂後 20 日間の平均気温が 28℃以上になると赤色を表示。
 胴割米判定: 出穂後 10 日間の最高気温が 30℃以上になると黄色を、
 出穂後 10 日間の最低気温が 25℃以上になると黄色を表示。
 斜体の数字: 気温の算出に観測値と平年値を使用していることを示す
 (8月31日までの気温は観測値を使用し、9月1日以降は平年値を使用)。

例えば、出穂期が8月10日の場合、白未熟粒判定は赤色、胴割米判定は黄色となっています。これは、白未熟粒や胴割米が発生しやすい状況であることを表しています。



(2) 落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。

早期の落水は、乳白粒や胴割米の発生を増加させ、品質・食味が低下してしまいます。特に高温下では品質低下が一層助長されます。間断かん水を継続して登熟を高め、落水時期は出穂後 30 日以降としましょう。収穫作業優先の早期落水は厳禁です。

飼料用米多収品種の調査を実施しています！

令和 6 年産から「水田活用の直接支払交付金」で支援する飼料用米への戦略作物助成が変更され、一般品種（コシヒカリ、あさひの夢、とちぎの星、にじのきらめき など）から、多収品種（国指定品種及び特認品種※）を基本とする支援体系に変わります。

栃木県においては、多収品種「夢あおば」と「月の光」による取組を推進することに決定しましたが、「夢あおば」については、管内での栽培事例は少なく、品種特性や栽培性、収量性が十分に分かりません。

そこで、JA・JA 米部会協力のもと、「夢あおば」の品種特性や栽培性、収量性の調査を実施しています。品種特性等の把握を十分に行い、次年産からの品種転換を促進していきます。

※多収品種(国指定品種及び特認品種) 令和 5 年 7 月現在

べこごのみ、いわいだわら、ふくひびき、べこあおば、夢あおば、亜細亜のかおり、オオナリ、もちだわら、モミロマン、ホシアオバ、みなちから、北陸 193 号、クサホナミ、ふくのこ、笑みたわわ

栃木県知事特認品種（栃木県）：月の光

表 4 栽培概要と出穂期調査結果

生産者：	A 氏（足利市）	B 氏（足利市）
播種期：	5 月 13 日	5 月 20 日
移植期：	6 月 14 日	6 月 27 日
栽植密度：	60 株/坪	
基肥肥料・施肥量：	オール 14 60kg/10a	
施肥法：	全層施肥	
出穂期：	8 月 20 日	8 月 30 日



写真2 「夢あおば」の穂長と穂揃期の様子(A氏ほ場 8月25日撮影)



写真3 「夢あおば」出穂期の様子(B氏ほ場 8月30日撮影)

～農作業中の事故防止のため、熱中症対策をしましょう～

- ①日中の気温の高い時間帯を外して作業を行う。
- ②熱中症予防グッズを活用する。
- ③こまめな休憩、水分補給を行う。
- ④作業は複数で行い、体調に異常がないか確認し合う。

農薬を使用するときは、ラベルをよく読み使用方法を守りましょう

問い合わせ先
安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課
TEL: 0283-23-1431

URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>